

フィールドに行けない

人類学(者)



2020年初めより突然に、瞬時に世界を覆ってしまった新型コロナウイルス。博士論文のため、まさにフィールドに行く準備をしていた研究者の卵にとっては大きな打撃だ。フィールドワークをベースにする学問、文化人類学にとっての難局をどう乗り越えていくか。先輩の経験から学びたい。

2021年7月24日(土) 13:00~15:30

1) 大川謙作 (日本大学)

「フィールドに行けない/行かない人類学

: 現代チベット研究と代替民族誌の問題」

2) 川口幸大 (東北大学)

「『竹のカーテン』の向こうにモデルを描け！

: 1950-70年代の中国研究に見る新型コロナ下の人類学の可能性」

3) 伊藤亜人 (東京大学)

「手記を手掛かりに生活実態に迫る

: 脱北者と人類学者の立ち位置」

4) ディスカッション

参加お申込みは
7月23日17:00まで
こちらから ↓

主催: 日本文化人類学 次世代支援WG / 協力: FENICS

お問い合わせ wakanatokyo@gmail.com



FENICS

Fieldworker's Experimental Network
for Interdisciplinary CommunicationS



JASCA

日本文化人類学会

The Japanese Society of Cultural Anthropology



あなたも、FENICSに参加しませんか？

<http://www.fenics.jp.org/>

<http://www.jasca.org>